

学士力としてのICT問題解決力を育成するための指導カリキュラムの開発

（平成29年度学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）に採択）



メディアコミュニケーション学部
情報文化学科
神部 順子 教授

今更ではありませんが、大学に求められる学士力の内容は、その時代に応じて変化しています。人工知能技術の発達により、現在ある職業の多くが将来はコンピュータ化されると言われる中、それらとは一線を画する資質・能力の育成が大学教育に求められています。もちろん、コンピュータは情報を処理する道具ですが、その処理のメカニズムは人間のそれとは異なり、倫理的な問題を含め、コンピュータに意思決定を任せられるわけではありません。その意味で、「問題解決力のために情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集・分析し、適正かつ創造的に思考・判断し、モラルに則って効果的に活用する力」の育成・強化は、ますます重要性が高まると考えられます。

さて、従来の大学における情報リテラシー教育は、時代の要請に依っているとはいえないところがあります。小中高との連携を検討する視点はほとんどなく、

個々の大学の専門性と教員の現状に応じて情報リテラシー教育がなされてきました。さらには、そのほとんどが、内容としては、コンピュータやデータ処理などのスキルを向上させることを目的としていました。それに対して本研究では「自らが立てた新たな課題を解決する能力」という視点から、内容に依存しない汎用的スキルとしてのICT問題解決力を育成しようとしているところに特色・独創的な点があります。

なお、私立大学情報教育協会では、2013年度より「情報リテラシー教育のガイドライン」の開発に着手しています。ここで、「情報リテラシー・情報倫理分科会」の主旨としてその開発にあたってきているのが、本研究の研究分担者である本学の玉田和恵先生です。玉田先生は、本研究の連携研究者で、本学の情報教育研究所の客員教授でもある、東京工業大学の松田稔樹先生が開発された「問題解決の縦系・横

系モデル」を採用し、一般教育としての情報リテラシー教育と、専門教育における情報処理教育とを統合した、学士力としての「ICT問題解決力」育成のためのガイドラインを提案されています。本研究でもこのことを踏まえ、学士力としてのICT問題解決力育成を目指した指導法、授業カリキュラムを開発し、それを活用して授業実施できる教師を育成する教師教育の手法を確立しようとするものです。

